～豊田発シモノセキキラキラプロジェクト～

やまぐち地域医療セミナー2023 in 下関

去る８月１７日(木)～１８日(金)に「未来の自分を地域で考える」というテーマのもと、将来地域医療をめざす県内外の医療系の学生を対象に、「やまぐち地域医療セミナー2023　in 下関」が、豊田中央病院をメイン会場として開催されました。まちづくり協議会は、山口大学国際総合科学部の学生と一緒に、両日の午前の部に企画、参加しました。(学生１７名、地域住民３１名参加)

１７日は「とよたいいとこ発見ツアー」として、しもまちスタンプラリーを行い、ラリーポイントの道の駅、豊田湖畔公園、旧殿居郵便局、農業公園みのりの丘、神上寺の５か所と途中杢路子の豊田渡(とよたわたせ)の浮石義民の碑を巡り、参加学生は、豊田の魅力を存分に体感していたようでした。

道の駅

湖畔公園のつり橋

旧殿居郵便局舎

浮石義民の碑

みのりの丘

神上寺

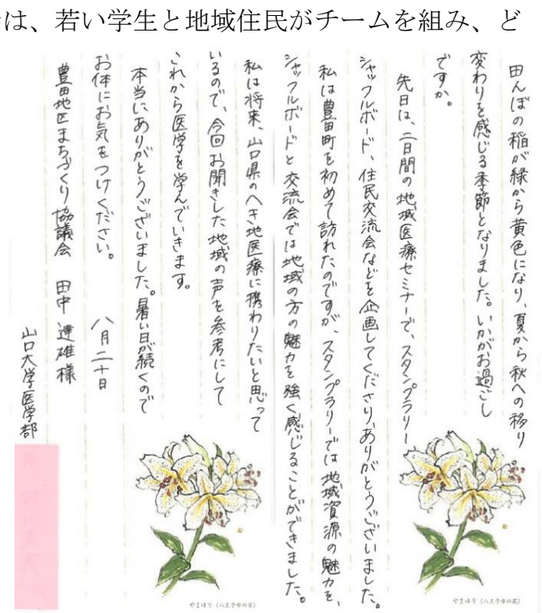
１８日はシャッフルボード交流会と、豊田町の医療や未来についての懇談会が行われました。

シャッフルボード交流会

シャッフルボード交流会は、若い学生と地域住民がチームを組み、どのチームも笑顔がはじけ、元気いっぱいのプレーが行われました。その後の話し合いも盛り上がり、住民の皆さんの話に熱心に耳を傾ける学生の真剣なまなざしが印象的でした。

懇談会の様子

１８日に行われた参加学生による発表会では、「地域の皆さんとの交流で、これからの地域医療を考える上で大切なことを学ぶことができた。」という声がたくさん聞かれました。


田んぼの稲が緑から黄色になり、夏から秋への移り変わりを感じる季節となりました。いかがお過ごしですか。
先日は、二日間の地域医療セミナーで、スタンプラリー、シャッフルボード、住民交流会などを企画してくださり、ありがとうございました。
私は豊田町も初めて訪れたのですが、スタンプラリーでは地域資源の魅力を、シャッフルボードと交流会では地域の方の魅力を強く感じることができました。
私は将来、山口県のへき地医療に携わりたいと思っているので、今回お聞きした地域の声を参考にしてこれから医学を学んでいきます。
本当にありがとうございました。暑い日続くのでお体にお気をつけください。
八月二十日
豊田地区まちづくり協議会　田中 遵雄様
山口大学医学部

参加した学生からお礼の手紙が届きました

みんなで まちづくり

豊田地区まちづくり協議会　広報　第31号
（令和５年９月発行）

【事務局】
住　所：下関市豊田町大字矢田１４９番地１
（豊田生涯学習センター内）
ＴＥＬ：０８３－７６６－０７７５（Fax 兼用）
メール：toyota.machizukuri@clock.ocn.ne.jp
在室日：火・木曜日（９：００～１２：００　１３：００～１７：００）

多くの被害をもたらした線状降水帯による記録的大雨

６月３０日(金)午前から豊田町に降り始めた雨は、深夜２２時５０分～２３時５０分の１時間に１０６.５㎜を記録するなど、翌７月１日(土)１５時までの雨量は、２９５㎜と記録的な大雨に襲われました。３０日の２３時３０分には避難指示が発令され、豊田総合支所に１６世帯２８名が避難しました。家屋の被害も多く発生し、町内では床上浸水が３９件、床下浸水が７５件報告されました。（数値は７月７日１０時現在、下関市防災危機管理課）また、農業関係にも多大な被害がありました。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、今回の大雨では、豊田町の名所旧跡も被害に遭い、特に石柱渓、神上寺、肥中街道は、洪水や土砂崩れ等で、現状が大きく変化し、早い復旧が望まれるところです。

石柱渓　遊歩道そばの崖崩れ

神上寺　崩れた鳥居

土砂でつぶされた肥中街道

2023 スタンプラリー開催中！！

７月２１日(金)から、市内各まちづくり協議会はスタンプラリーを開催しています。豊田地区でも５か所のスタンプラリーポイントが設定されています。豊田町の５か所全てを回った方の感想の中には、『豊田は広い』『知らない場所に導かれて行くと、新しい発見があって楽しいです』というものや、ラリーポイントの神上寺の豪雨被害について心配や励ましの声もありました。神上寺のポイントでは電波が入らない携帯会社もあり、お叱りの声もありましたが、つながらない場合は、豊田下公民館でポイントがゲットできます。

１０月３１日(火)まで開催していますので、町内巡りを楽しんでみませんか！！

※スタンプラリーに参加するには、『しもまちアプリ』のダウンロードが必要です。

第2回まち中花いっぱいフォトコンテスト開催中です！！
10月31日(火)まで、花の写真の応募をお待ちしています。

各地区の情報コーナー

★豊田中地区★　山肌を覆う白いとんがり帽子

春先から、木々が伐採された山肌一面が「白いとんがり帽子」のようなもので覆われている様子を見かけるようになりました。近寄って見ると、植林された苗木に支柱が立てられ、白い袋が被せられています。

山口県西部森林組合に、「なぜ、苗木に白い袋が被せられているのか？」お聞きしました。植林したスギやヒノキ、クヌギなどの苗木に袋が被せてあるのは、シカの食害から苗木を守るためだそうです。「袋を被せていないと、シカに苗木が食べられてしまい、枯れてしまう。」とのことでした。

苗木に被せてある袋の高さは１．７ｍで、苗木の先端（樹頂）が２ｍを超えた頃に袋をはずされるそうです。「およそ２ｍ間隔で苗木が植えられており、遠くから見ると山一面に白いとんがり帽子が立っているように見えるのではないか？」とのことでした。（写真は中八道地区）

★殿居地区★　安心してお参りを　～みんなできれいな招魂場に～

７月１５日(土)殿居遺族会（一ノ俣 河内良治会長）が、招魂場の草刈り及び清掃作業を行いました。

ご遺族の方々や各地区自治会長（豊田地区まちづくり協議会ネットワーク殿居ふれあいグループ）の皆さんが参加され、進入路を覆うように伸びていた草や視界を遮る木々の枝も、作業後は見違えるようにきれいになり、これで、ご遺族の方々も安心して訪れることができるようになりました。

参加された皆様、真夏の暑い中での作業、大変お疲れさまでした。

うちわを片手に　～ほたるホームで夏祭り～

７月２７日(木)ほたるホームとよた（荒木）において、「第２８回夏祭り」が開催されました。

迫力ある「鼓郷温座堂」の太鼓で幕が開け、アイドルグループ「えくれあエクレット」のステージパフォーマンス、平家踊りなどの出し物の後、最後は、ナイアガラの滝を模した幅約２０ｍの圧巻の花火など、入所者の皆さんや見物に訪れた地元の方々は、暮れなずむ里の夏のひとときを存分に楽しんでいました。

★三豊地区★　大雨のつめあとが残る 石柱渓

「小松の滝」土砂で崩れ落ちた遊歩道

国指定名勝天然記念物「石柱渓」。今年６月３０日(金)から７月１日(土)にかけての記録的豪雨により、甚大な被害を受けました。遊歩道は大量の流水により何ケ所も削られ、土砂が崩れ落ち、倒木によってふさがれました。

７月下旬、市担当課によって遊歩道をふさいでいた倒木は一部撤去され、台地区の方の清掃作業により遊歩道を覆っていた落ち葉や枝はきれいに取り除かれましたが、道が狭くなっている箇所もあり、注意しながら歩くことが必要です。残念ながら「若葉の滝」より先は、倒木が遊歩道をふさいでいるため通行することができません。

石柱渓のさまざまな美しい滝は、これまでも水害により少しずつ姿を変えていきました。自然災害なので、しかたがないとはいえ、これ以上美しい渓谷の姿が変わらないよう願うばかりです。

★豊田下地区★　記録的大雨に襲われる～豊田下地区でボランティアが活躍～

床上浸水が多かった豊田下地区の手洗・飯塚・石町では、すぐに駆けつけた知り合いや、７月６日(木)からは自治会、民生児童委員、社会福祉協議会、消防団豊田方面隊豊田下分団、豊田地区まちづくり協議会なども加わり多くのボランティアが家財や土砂の搬出等、被災家屋の復旧支援を行いました。

石町郵便局横

使えなくなった家財の集積所（中村）

局舎が膝のあたりまで浸水した石町郵便局では、被害を受けたATMなど、機器類全ての入れ替えと局舎の壁の修復工事もあって、被災から１か月余り休業、８月７日(月)から営業が再開されました。今回の大雨災害、自然災害は「個々の支援活動では限界がある」との声もあります。「災害に備えるには、被災後の支援体制の整備も必要」との声も多く聞かれました。

★西市地区★　防災訓練４年ぶりに実施

町内４地区(殿居、豊田中、豊田下、西市(三豊含む))で毎年順番に実施されている、豊田町総合防災救急訓練が８月２７日(日)に西市地区で４年ぶり(コロナ禍で３年中止)に豊田総合支所、豊浦東消防署、消防団西市分団等の団体が参加して行われました。

訓練では、まず参加した自治会の皆さんが仮設流水プールの中を歩く「浸水歩行訓練」(右写真)を体験しました。

その後、生涯学習センターの２階ホールで豊田中央病院医師、看護師によるトリアージ(傷病者振分け)訓練や、防災士会から６月末～７月１日の町内「豪雨災害を振り返って」の講話、豊浦東消防署長が各地(九州北部豪雨など)の大規模被災地に災害救助隊長として派遣された貴重な体験談について現地写真をまじえての講話などがあり、とても有意義な訓練となりました。